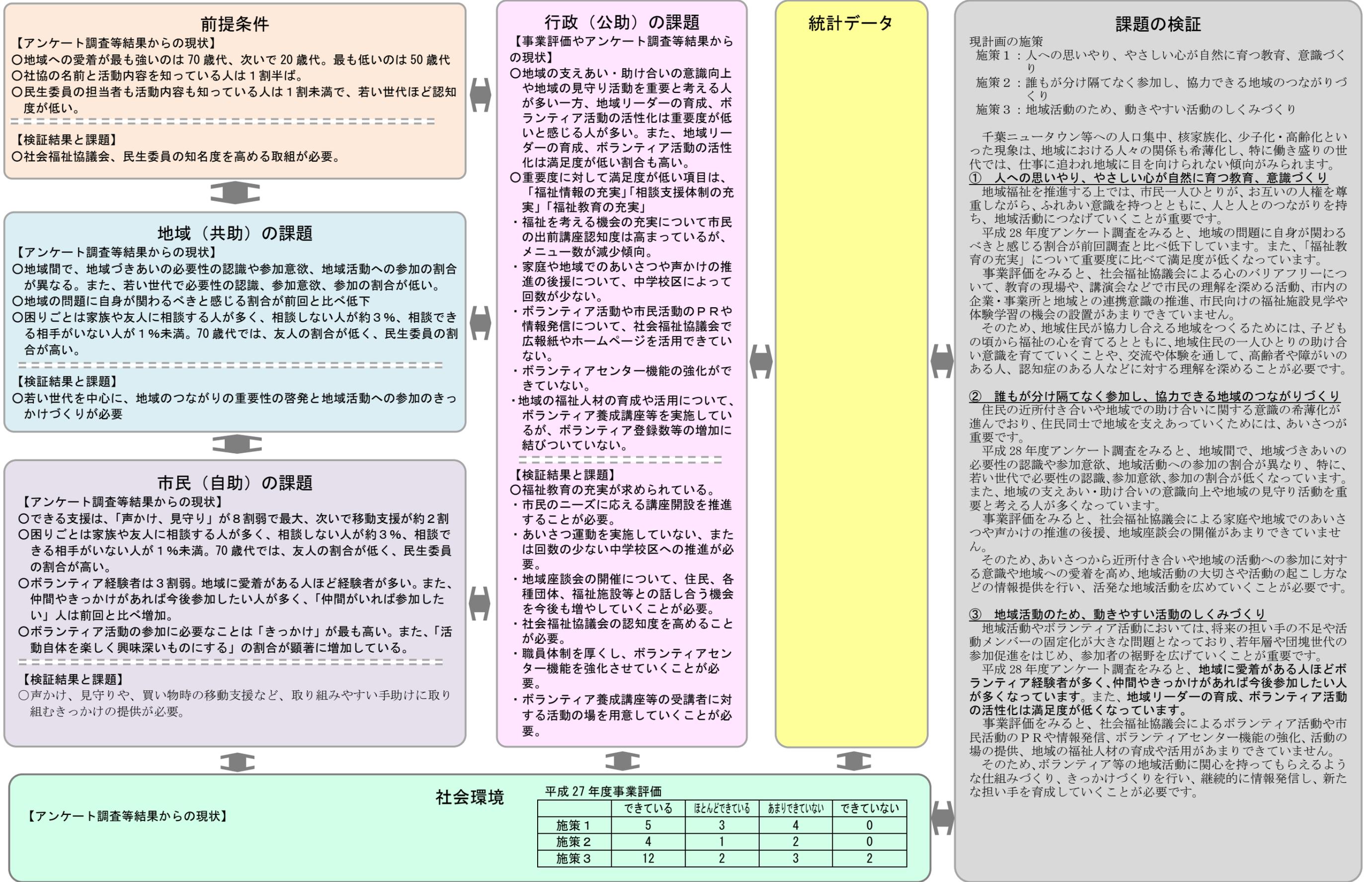


目標1「お互いの幸せのために、自然に関わりあいのできる「つながり」をつくろう」の課題整理表



前提条件

【アンケート調査等結果からの現状】

- 地域への愛着が最も強いのは70歳代、次いで20歳代。最も低いのは50歳代
- 社協の名前と活動内容を知っている人は1割半ば。
- 民生委員の担当者も活動内容も知っている人は1割未満で、若い世代ほど認知度が低い。

【検証結果と課題】

- 社会福祉協議会、民生委員の知名度を高める取組が必要。

地域（共助）の課題

【アンケート調査等結果からの現状】

- 地域間で、地域づきあいの必要性の認識や参加意欲、地域活動への参加の割合が異なる。また、若い世代で必要性の認識、参加意欲、参加の割合が低い。
- 地域の問題に自身に関わるべきと感じる割合が前回と比べ低下
- 困りごとは家族や友人に相談する人が多く、相談しない人が約3%、相談できる相手がない人が1%未満。70歳代では、友人の割合が低く、民生委員の割合が高い。

【検証結果と課題】

- 若い世代を中心に、地域のつながりの重要性の啓発と地域活動への参加のきっかけづくりが必要

市民（自助）の課題

【アンケート調査等結果からの現状】

- できる支援は、「声かけ、見守り」が8割弱で最大、次いで移動支援が約2割
- 困りごとは家族や友人に相談する人が多く、相談しない人が約3%、相談できる相手がない人が1%未満。70歳代では、友人の割合が低く、民生委員の割合が高い。
- ボランティア経験者は3割弱。地域に愛着がある人ほど経験者が多い。また、仲間やきっかけがあれば今後参加したい人が多く、「仲間がいれば参加したい」人は前回と比べ増加。
- ボランティア活動の参加に必要なことは「きっかけ」が最も高い。また、「活動自体を楽しく興味深いものにする」の割合が顕著に増加している。

【検証結果と課題】

- 声かけ、見守りや、買い物時の移動支援など、取り組みやすい手助けに取り組むきっかけの提供が必要。

行政（公助）の課題

【事業評価やアンケート調査等結果からの現状】

- 地域の支えあい・助け合いの意識向上や地域の見守り活動を重要と考える人が多い一方、地域リーダーの育成、ボランティア活動の活性化は重要度が低いと感じる人が多い。また、地域リーダーの育成、ボランティア活動の活性化は満足度が低い割合も高い。
- 重要度に対して満足度が低い項目は、「福祉情報の充実」「相談支援体制の充実」「福祉教育の充実」
- ・福祉を考える機会の充実について市民の出前講座認知度は高まっているが、メニュー数が減少傾向。
- ・家庭や地域でのあいさつや声かけの推進の後援について、中学校区によって回数が少ない。
- ・ボランティア活動や市民活動のPRや情報発信について、社会福祉協議会で広報紙やホームページを活用できていない。
- ・ボランティアセンター機能の強化ができていない。
- ・地域の福祉人材の育成や活用について、ボランティア養成講座等を実施しているが、ボランティア登録数等の増加に結びついていない。

【検証結果と課題】

- 福祉教育の充実が求められている。
- ・市民のニーズに応える講座開設を推進することが必要。
- ・あいさつ運動を実施していない、または回数の少ない中学校区への推進が必要。
- ・地域座談会の開催について、住民、各種団体、福祉施設等との話し合う機会を今後も増やしていくことが必要。
- ・社会福祉協議会の認知度を高めることが必要。
- ・職員体制を厚くし、ボランティアセンター機能を強化させていくことが必要。
- ・ボランティア養成講座等の受講者に対する活動の場を用意していくことが必要。

統計データ

課題の検証

現計画の施策

- 施策1：人への思いやり、やさしい心が自然に育つ教育、意識づくり
- 施策2：誰もが分け隔てなく参加し、協力できる地域のつながりづくり
- 施策3：地域活動のため、動きやすい活動のしくみづくり

千葉ニュータウン等への人口集中、核家族化、少子化・高齢化といった現象は、地域における人々の関係も希薄化し、特に働き盛りの世代では、仕事に追われ地域に目を向けられない傾向がみられます。

① **人への思いやり、やさしい心が自然に育つ教育、意識づくり**
 地域福祉を推進する上では、市民一人ひとりが、お互いの人権を尊重しながら、ふれあい意識を持つとともに、人と人とのつながりを持ち、地域活動につなげていくことが重要です。
 平成28年度アンケート調査をみると、地域の問題に自身に関わるべきと感じる割合が前回調査と比べ低下しています。また、「福祉教育の充実」について重要度と比べて満足度が低くなっています。
 事業評価をみると、社会福祉協議会による心のバリアフリーについて、教育の現場や、講演会などで市民の理解を深める活動、市内の企業・事業所と地域との連携意識の推進、市民向けの福祉施設見学や体験学習の機会の設置があまりできていません。
 そのため、地域住民が協力し合える地域をつくるためには、子どもの頃から福祉の心を育てるとともに、地域住民の一人ひとりの助け合い意識を育てていくことや、交流や体験を通して、高齢者や障がいのある人、認知症のある人などに対する理解を深めることが必要です。

② **誰もが分け隔てなく参加し、協力できる地域のつながりづくり**
 住民の近所付き合いや地域での助け合いに関する意識の希薄化が進んでおり、住民同士で地域を支えあっていくためには、あいさつが重要です。
 平成28年度アンケート調査をみると、地域間で、地域づきあいの必要性の認識や参加意欲、地域活動への参加の割合が異なり、特に、若い世代で必要性の認識、参加意欲、参加の割合が低くなっています。また、地域の支えあい・助け合いの意識向上や地域の見守り活動を重要と考える人が多くなっています。
 事業評価をみると、社会福祉協議会による家庭や地域でのあいさつや声かけの推進の後援、地域座談会の開催があまりできていません。
 そのため、あいさつから近所付き合いや地域の活動への参加に対する意識や地域への愛着を高め、地域活動の大切さや活動の起こし方などの情報提供を行い、活発な地域活動を広めていくことが必要です。

③ **地域活動のため、動きやすい活動のしくみづくり**
 地域活動やボランティア活動においては、将来の担い手の不足や活動メンバーの固定化が大きな問題となっており、若年層や団塊世代の参加促進をはじめ、参加者の裾野を広げていくことが重要です。
 平成28年度アンケート調査をみると、地域に愛着がある人ほどボランティア経験者が多く、仲間やきっかけがあれば今後参加したい人が多くなっています。また、地域リーダーの育成、ボランティア活動の活性化は満足度が低くなっています。
 事業評価をみると、社会福祉協議会によるボランティア活動や市民活動のPRや情報発信、ボランティアセンター機能の強化、活動の場の提供、地域の福祉人材の育成や活用があまりできていません。
 そのため、ボランティア等の地域活動に関心を持ってもらえるような仕組みづくり、きっかけづくりを行い、継続的に情報発信し、新たな担い手を育成していくことが必要です。

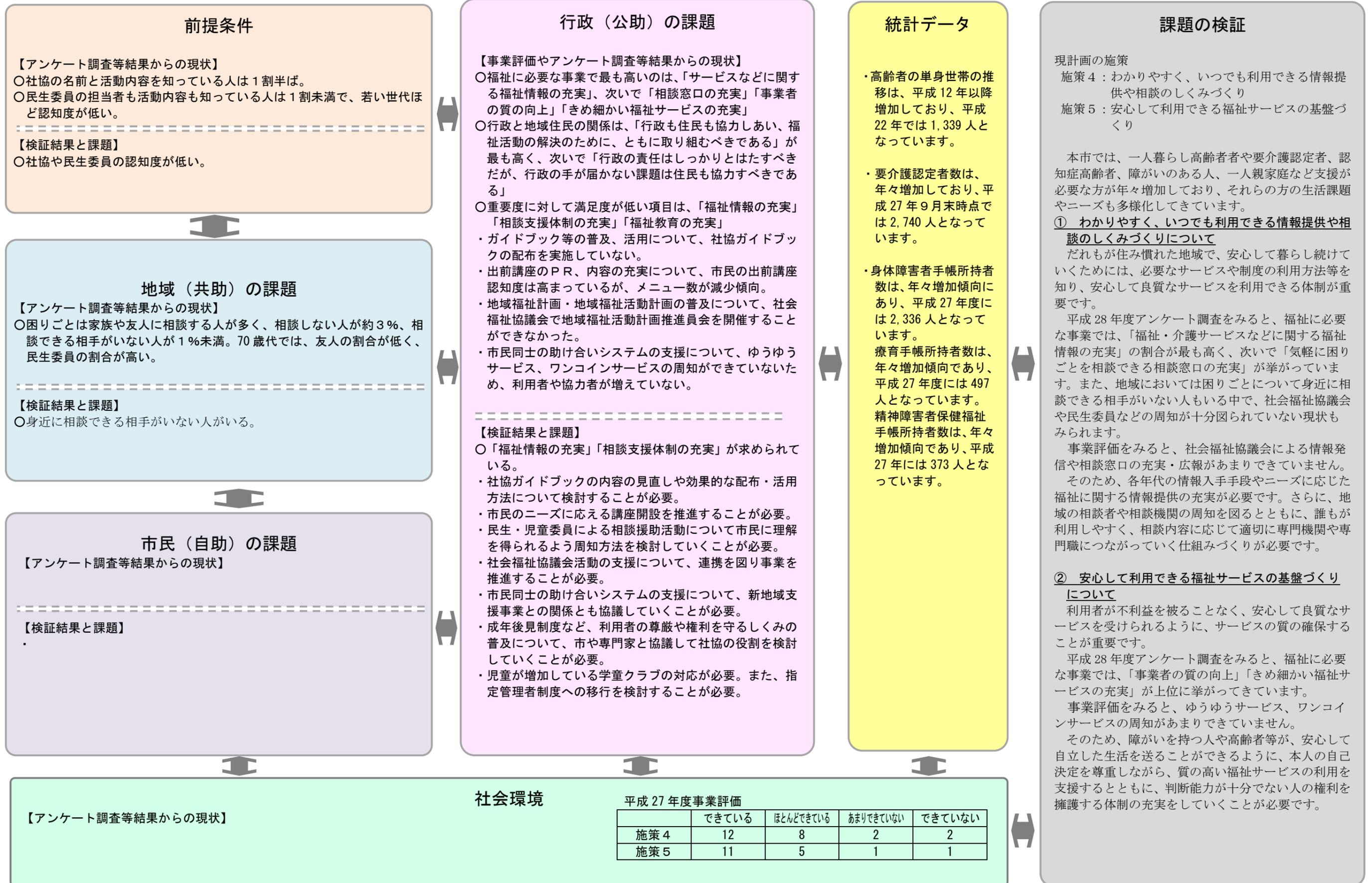
社会環境

平成27年度事業評価

	できている	ほとんどできている	あまりできていない	できていない
施策1	5	3	4	0
施策2	4	1	2	0
施策3	12	2	3	2

【アンケート調査等結果からの現状】

目標2「誰もが安心して必要なサービスを利用できる「しくみ」をつくろう」の課題整理表



【アンケート調査等結果からの現状】

【アンケート調査等結果からの現状】

【検証結果と課題】
○身近に相談できる相手がいらない人がいる。

地域（共助）の課題

【アンケート調査等結果からの現状】
○困りごとは家族や友人に相談する人が多く、相談しない人が約3%、相談できる相手がいらない人が1%未満。70歳代では、友人の割合が低く、民生委員の割合が高い。

【アンケート調査等結果からの現状】
○社協の名前と活動内容を知っている人は1割半ば。
○民生委員の担当者も活動内容も知っている人は1割未満で、若い世代ほど認知度が低い。

【検証結果と課題】
○社協や民生委員の認知度が低い。

目標3「地域ぐるみで、いつまでも安心安全に暮らし続けられる「まち」をつくらう」の課題整理表

